

総務文教委員会県外調査

調査日／平成25年10月29・30日
調査地／岐阜県可児市・滋賀県大津市
調査事項／子どものいじめの防止に関する条例について

可児市は、平成24年10月に「可児市子どものいじめの防止に関する条例」を制定しました。同市の特徴は、いじめ防止を社会全体で取り組むべき責務として捉え、市長部局でいじめ対策を行っている点です。所管を教育委員会ではなく市長部局とすることで、第三者として学校と保護者の間に立ち、相談を受けることができるというメリットがあるそうです。いじめの認知件数を少なくするのではなく、重大ないじめが起らないようにすることに重点を置いているとのことでした。

により平成25年2月に「大津市子どものいじめの防止に関する条例」を制定しました。本町も両市の取り組みを参考として、学校、保護者、地域住民などと連携していじめ問題に取り組んでいくべきであると感じました。

可児市は、平成24年10月に「可児市子どものいじめの防止に関する条例」を制定しました。同市の特徴は、いじめ防止を社会全体で取り組むべき責務として捉え、市長部局でいじめ対策を行っている点です。所管を教育委員会ではなく市長部局とすることで、第三者として学校と保護者の間に立ち、相談を受けることができるというメリットがあるそうです。いじめの認知件数を少なくするのではなく、重大ないじめが起らないようにすることに重点を置いているとのことでした。

一方、大津市は、平成23年10月に発生した大津市中2いじめ自殺事件を受け、議員提案



可児市の研修

福祉厚生委員会県外調査

調査日／平成25年10月3・4日
調査地／滋賀県長浜市・福井県若狭町
調査事項／介護予防、認知症対策について

長浜市は、「近くの会館まで歩いて行き活動できる85歳」を目標に掲げ、「筋力アップ」「栄養改善」「お口の健康」「閉じこもり・うつ予防」認知症の予防の5項目に着目した介護予防事業を行っています。また、介護予防サポーターと協力して、介護予防の出前講座の住民による自主運営化に取り組んでいます。「転倒予防教室」や「栄養改善・口腔機能向上教室」などをそれぞれの地域で開催することで、地域のふれあいの場の一つとなっていました。

若狭町は、認知症サポーターの割合が全国一で、町民の認

知症に関する意識が高かったです。認知症患者を町全体で支えるため、患者の家族だけでなく、地域や小・中学校の児童生徒たちに向けた出前講座を行いました。また、認知症は早期に発見し、治療を開始することで、症状の進行を遅らせることができます。周りに「おやつ？」と気になる人がいたら、早期の受診を勧めて治療が開始できるような、地域の連携体制が整っている

両市町とも、介護や認知症の問題を地域全体で取り組もうとする姿勢が印象的で、大変有意義な研修になりました。



高島さんによる研修（若狭町）

災害防止対策等調査特別委員会県外調査

調査日／平成25年11月26・27日
調査地／宮城県石巻市・宮城県名取市閑上地区
調査事項／東日本大震災における被害状況と現状について

平成23年3月11日の東日本大震災から2年8ヵ月、震災における被害状況と現状について、災害防止対策等調査特別委員会が宮城県石巻市と名取市閑上地区

区に調査に行きました。石巻市は、震災前は約16万3000人の人口が、震災後約15万人に減少しました。震災関連の死亡者は、約3500人、震災時の避難者数は、最大で約5万1000人にのぼりました。人々には普段の生活が戻りつつありますが、街中には空き地が点在しており、いたるところに震災の爪痕が残っています。

門脇町にある「がんばろう石巻」の看板の前で献花を行いました。ここには当時店舗があり、まわりは住宅街でしたが、6・9メートルもの津波が押し寄せ、広大な空き地と化していました。周辺には工場群があり、犠牲者も出ましたが、ある企業では従業員が約600人いたにも関わらず、一人の犠牲者も出ませんでした。その企業の日ごろの訓練や防災意識の高さが、従業員の命を守ったのではないかと感じました。



閑上中学校の慰霊碑に献花

名取市閑上地区は、震災前に比べ、人口が約半数に減り、震災で亡くなられた方の率は他の地区に比べて非常に高く、現在も数十人の方が行方不明となっています。ほとんどの方が津波による被害で亡くなられたとのこと。被災された方のお話によると、車で避難し、渋滞に巻き込まれて車の中で命を落とされた方、津波が後ろに迫っていることに気付かず、歩いて避難して命を落とされた方、一方で、近くの歩



700軒の家がありました

道橋に上り助かった方と、避難行動が暗闇を分けたことを話してくださいました。

また最寄りの中学校に避難した際、防災備品が整備されていたことが、救援物資が届くまでは寒さや空腹に耐えねばならぬ、大変辛い思いをされたとのことでした。防災設備のあり方について、再度考え直さねばならないと感じました。

南海トラフ地震が発生した場合、海田町では10000人もの死者が発生する可能性があるとの県の発表がありました。予測を裏切り、一人の犠牲者も出さないと、防犯準備の徹底と、みなさんの意識啓発に努めていきたいと感じた研修でした。